



野城 智也

業種を越えて設計から運用まで本当に使える BIM の仕組みを探求

BIM による建築生産イノベーションに関する特別研究会 RC-90

1. 代表幹事

野城智也（東京大学生産技術研究所 教授）

幹事

森下 有（東京大学生産技術研究所 助教）

連絡先

森下 有

Tel : 03-5452-6400

Fax : 03-5452-6402

e-mail : ymorishi@iis.u-tokyo.ac.jp

2. 主旨

従前より、BIM（Building Information Modeling）を導入することによって、建築設計を含む建築生産プロセスを変革する期待が高まっている。特に、従来の人々の暗黙知識に付随して蓄積されてきた異業種間相互調整プロセスから、建物の情報のみならず、建築生産に必要な当事者間調整情報（設計情報・生産情報）を統合的にマネジメントしていくプロセスに変革していく期待は高い。

しかしながら、我が国の現状は、英語圏、欧州諸国等に比べ、その導入・普及が劣後にある状況である。これは、

- ・建築設計だけでなく、建築生産プロセスの下流でのBIMの普及が進んでいないため、期待される便益が得られていないこと
- ・便益が得られるという成功体験がないために、BIMの普及が進まない

という悪循環によると考えられる。

本研究会の目的は、その悪循環から抜け出すため、建築施工、建築部材の製作、建築の維持管理のプロセスにおける価値創成を生むためには、如何なる課題があるのかを特定することにある。特に、本研究会が焦点を当てるのは、情報の相互利活用を可能にするためのInteroperabilityを高めるためのデファクト・スタンダードである。米国におけるLEVEL OF DEVELOPMENT SPECIFICATIONにあたるような、BIMの内容情報の一貫性、相互利用可能性を保証するような申し合わせルールを、我が国の現状、及びグローバリズムにあわせてどのように作成すればよいのか、その論点を整理していく。

3. その他

期 間：平成27年11月～平成28年3月末

参 加 費：賛助員の場合 : 5万円（別途賛助員年会費1口10万円がかかります）

非賛助員の場合：15万円

定 員：10～15名程度

運 営 方 法：年度内に計4回開催（第1回は平成27年11月）

第1回：参加者の相互理解

第2回：ネガティブ論の共有

第3回：ポジティブ論の共有

第4回：道筋の議論